

令和8年3月9日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立四谷第六幼稚園
所在地	新宿区大京町30

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然との関わり

<テーマの設定理由>

本園の幼児は日頃から身近な虫、草花や飼育栽培物と関わるのが好きであり、自然に対して親しみをもっている。少人数であるが、学年を超えて、自然との関わりを通して異年齢の幼児同士と一緒に遊ぶ場面も多く見られている。また、園の近くには新宿御苑、水場のある若葉公園など都心にありながらも自然豊かな環境もある。幼児が多様な直接体験を通してより一層自然への興味・関心をもち、自然や人との関わりを深めていくために、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

通年：園庭、テラスでの遊び（日常的な自然物との関わり）

5月・10月：新宿御苑遠足（5月は親子遠足） 5月：若葉公園徒歩遠足

5月：夏野菜栽培 10月：冬野菜栽培 11月：春の花苗、種まき 通年：栽培物の世話

6月～9月：水遊び、プールでの水遊び 6月～9月：園庭、テラスでの色水遊び・シャボン玉遊び

10月：草木染ワークショップ（外部講師） 11月：神宮外苑徒歩遠足

1月：サイエンスショー（外部講師）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○園外活動：散策カード、タブレット端末、地図、文房具、袋類、虫網、飼育ケースなど

○栽培活動：土類、花苗、野菜苗、種、プランター、鉢など

○水遊び、色水遊び関係：屋外用テーブル、ベンチ（テーブルとして使用）、すり鉢、すりこ木、ポリ袋、かさ袋、ビニルプール、飼育ケース、お玉など

○描画・製作活動：絵具、紙類、布ガムテープ、セロハンテープ、色画用紙、スズランテープなど

○ワークショップ：ガーゼハンカチ、豆乳、酢、スプーン、クリアファイルなど

- サイエンスショー：（ショーの内容再現のために）ポリ袋、鉛筆、風船など
- その他：テラスにすのこ状のジョイントマットを敷き、水を使った活動が安全に実施できるようにした

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- 園外活動：新宿御苑にて親子遠足を実施し、初夏の自然に関する発見カードを作成し散策を行った。秋にも再度新宿御苑を訪れ、全園児で散策しながら紅葉や木の実探しなど秋の自然に触れて親しんだ。
初夏には、近隣の若葉公園に出かけ、ザリガニやオタマジャクシなど水生生物に触れて親しみをもった。
秋には、神宮外苑に徒歩遠足に出かけ、銀杏並木の紅葉を見たり木の実拾いを楽しんだりした。後日木の実を使って園内でごっこ遊びや製作活動を楽しんだ。
- 親子栽培：幼稚園玄関の通路を活用し、春と秋に親子栽培をして球根や花苗を育てた。
日々の生長や開花を楽しみにしながら水やりや雑草抜きに取り組み、栽培物に親しみをもったり、ビオラの種まきでは発芽の不思議さやままならない自然の奥深さを感じたりした。
- 栽培活動：夏野菜や冬野菜、花苗や種の栽培を通して季節の変化を感じたり、土づくりから種まき、苗植え、水やり、雑草抜き等栽培物の世話を知ったりして年間を通して自然物との関わりを楽しんだ。野菜は収穫して調理して食べたり、カレーパーティーをしたりして味覚を通して親しむようにした。
- 色水遊び・草木染め：初夏に園庭やテラスの花や葉を使って色水遊びを楽しんだ。色の出やすい花や葉に気づいたり、色を出す方法を試行錯誤したりした。
外部講師「葉っぱ染め太郎先生」を招いて親子でワークショップを開催し、親子で探した園内の葉っぱをこすりだしてガーゼハンカチ染めを楽しんだ。
- 水遊び・プール：3歳児はテラスのビニルプールを中心に、4・5歳児は幼児用プールで水遊びを繰り返し楽しんだ。抵抗なく水に親しめるよう遊具を用意したり、水の特性を感じて遊ぶ経験を重ねられるようにしたりして、水の心地よさや面白さを味わった。
- サイエンスショー：シャボン玉や空気砲、静電気など自然現象や科学の不思議さに関心がもてるようにした。間近で実験の形で見ることにより興味が高まり、体験を通して自分でもやってみたいという気持ちをもって遊びに取り入れた。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- 5歳児は自分の気付きを保育者や友達に積極的に言葉で伝えたり、知らせ合ったりする姿があった。特に栽培物の変容や実りは張り切って気付きを発信していた。3・4歳児は保育者と一緒に関わる中で不思議に思ったことをつぶやいたり、変化に気づいて嬉しさを共有したりした。
- 保護者は継続して取組を発信していたことで、登降園時に幼児と一緒に栽培物に関わったり、外部講師を招いた活動にも積極的に参加したりして、幼児と一緒に楽しんでくれた。「身近な自然物と関わることを楽しもうという意識が高まった」と園評価等で記載があった。
- 友達の取組や活動の様子を見て自分もやってみよう、関わってみようとする姿が多く見られた。少人数園のため全園児で活動する場面も多く、互いに声を掛け合いながら自然物との関わりを楽しんだ。

<活動の様子>



5. 振り返り

- 栽培活動は幼児が日常的に直接触れやすい場に環境設定すること、長期的な見通しをもって適時を逃さず取り組むことが大切であると改めて分かった。
- 自然相手の活動は、予定していたとおりにならなかったらどうするか、までを想定して環境の設定や準備をしておくことが重要である。
- 自然物との関わりは幼児の気付きや興味を広げ、豊かな発信を促し、ひいては幼児同士の関わりも広げていくことが分かった。少人数の本園にとって重要な体験活動であることが分かった。
- すくわくプログラムを通して予算があったことで、戸外の環境整備や教材の充実を図ることができ、幼児が満足感を味わうまで繰り返し試したり、十分楽しんだりする活動を実施することができた。次年度は今年度の取組を生かして、より適した栽培物や、幼児の関わりを広げる戸外の環境整備を進めていきたい。

以上